

穂別町立博物館の 20 年

-クビナガリュウ ‘ホッピー’ と歩んだ博物館の歴史-

Twenty years of Hobetsu Museum –The history with ‘Hoppy’, a swan lizard in Hobetsu-

櫻井 和彦

Kazuhiko SAKURAI

村上 隆

Takashi MURAKAMI

穂別町立博物館, 北海道勇払郡穂別町穂別 80-6

Hobetsu Museum; 80-6, Hobetsu, Yufutsu-gun, Hokkaido, 054-0211 Japan

Abstract

Hobetsu-cho is located at the center of Hokkaido and possesses abundant fossils of marine animals. Hobetsu Museum is a local museum that introduces the geological history of Hobetsu based on fossil and geology. In 1977, a well preserved skeleton of a swan lizard was excavated in this town, and Hobetsu Museum was opened in 1982. In 2002, we held the twentieth anniversary of the museum's birth. This is a note of the history of Hobetsu Museum.

Key words- Hobetsu, Hobetsu Museum, museum activity

(2004年6月16日受付)

はじめに

穂別町立博物館は、長頸竜化石「ホベツアラキリュウ」(別名ホッピー)の発見がきっかけとなって、開町70年・町制施行20年の1982年に開館し、2002年に20周年を迎えた(図1)。開館当初は化石の他に生活や歴史資料も展示する「総合博物館」であったが、1991～1992年の展示更新をきっかけに、穂別地域から豊富に産出する動物化石を題材にして本地域の地史を紹介する自然史系博物館に方針を転換した(図3・図4を参照)。

本報告は、開館20年を機会にその歴史を振り返るものである。今後の博物館活動の参考になれば幸いである。なお、内容に関する一部は既に、2001年・2002年の特別展「穂別町立博物館の20年」で公開した。

I 博物館活動の紹介

穂別町立博物館の活動内容について、概要を紹介する(詳細は櫻井, 2000aを参照)。

1. 資料の収集と保存

(1)資料収集 穂別町内における野外調査により、動物化石を中心に化石資料を収集している。特に、中生代白亜紀の海棲爬虫類化石(クビナガリュウ、モササウルスやウミガメなど)と海棲軟体動物(ア

ンモナイトなど)、新生代第三紀の海棲哺乳類化石(クジラやデスモスチルスなど)と海棲軟体動物に重点を置いている。当館の所蔵する脊椎動物化石の概要については、地徳(1990)などを参照。

(2)収蔵資料 穂別町立博物館の収蔵する登録資料は、自然史系資料(化石・地質)1,079点、自然系資料(現生動植物)88点、人文系資料(生活・歴史など)3,727点(2004年3月31日現在)である。点数の上では人文系資料が最も多いが、展示更新後は自然史資料の収集・保存に重点を置いている。

(3)収蔵資料目録 これまでに「穂別町立博物館 収蔵資料目録I(白亜系函淵層群産化石)」(1986年)と「穂別町立博物館 収蔵資料目録II(人文系資料分類目録)」(1989年)を発行した。

2. 調査と研究

(1)化石の研究 穂別地域から産出する脊椎動物化石を中心に研究を進めている。中生代白亜紀のモササウルス類化石については当館の学芸員が研究を継続している(鈴木, 1984; 地徳, 1994; 櫻井ほか, 1998など)が、その他については外部の研究者に依頼する場合もある(櫻井, 2000aなどを参照)。

(2)研究報告 「穂別町立博物館 研究報告」を、年1回を基本として発行している。穂別とその周辺地域の地質や古生物、自然についての研究や、博物館活動に関する理論や実践記録などを掲載。初刊は1984年で、最新は第19号(2004年3月発行)。こ

れまでに 69 編の論文を掲載。内訳は化石 35 編、地質 14 編、博物館活動 12 編、現生動植物 2 編など。穂別地域で産出した化石について記載論文も多い。化石・地質分野の論文は 49 編で全体の 7 割を超える。また、外部研究者からの投稿は 43 編で全体の 6 割を超える。詳細は表 2 を参照。

3. 普及活動

(1) 普及事業 当館の専門性と穂別町の特徴を生かし、「化石採集」や「化石クリーニング」は開館から現在まで引き続き実施されており、穂別町の化石・地質に関する講演会や観察会なども度々実施されている。また、自然観察会や天体観測会なども実施されてきた。中には、以前には町内にて行われていた「砂金採り」の体験(1986年)や、市街地の「進化の道」の整備に伴い実施された「ホッピー通り探検」(1996年)、川や山を歩いて穂別の自然や化石を知る「ホッピー探検隊」(2000～2003年)など、地域に根ざした事業も実施されている。さらに、近隣の博物館や学校などから化石や地質に関する講演や指導を依頼される場合もある。近年は「総合的な学習」の導入などに伴い、学校教育からの要望が増加してきている。当館の専門性を生かしながら、地域により密着した活動が求められていると感じている。最近の普及事業については、櫻井(2003)や櫻井・伊藤・高橋(2003)を参照。

(2) 特別展等 1982年～2003年の21年間で、特別展、収蔵資料展、企画展などは計22回開催している。展示更新より数年間(1991年～1996年)中断したが、基本的に年1回もしくは2回開催している。これまでに化石・地質を題材にした展示は12回で半数を超える。その他は人文系収蔵資料の紹介や、穂別の自然に関する展示などである。特に2002年は、20周年記念事業との関わりで4件を実施した。詳細は表1を参照。

(3) 広報紙 博物館広報紙「ホッピーだより」を毎月発行している。博物館開館の翌年である1983年4月に創刊、学芸員の交代(1985年)や展示更新(1992年)によって一時中断するが、2004年6月に第235号を発行し、現在も継続中である。その形態も、B4片面～B5両面～B4両面～A4両面(まれにA3両面)と変遷し、原稿の作成も手書きからワープロ、パソコンへと移り変わった。普及事業の案内や報告、博物館活動の紹介や、地質・化石に関する記事、開館予定などを掲載し、穂別町広報紙とともに町内各家庭に配布されている。詳細は表3を参照。

(4) 出版物 ホベツアラキリュウ発掘から博物館開館までを記した「よみがえるクビナガリュウ」(1984年発行、本論の執筆者の一人である村上による著

書)、更新後の展示理念について解説した「穂別町立博物館ガイドブック」(1993年発行)がある。

4. その他の活動

(1) 館報 「穂別町立博物館 館報」を年1回発行し、博物館活動や運営について年度毎に報告している。第1号は1985年(1982年・1983年度版)、最新号は第21号(2003年度版、2004年7月発行予定)。

5. 他館との交流・連携

(1) 博物館協会等 穂別町立博物館は、日本博物館協会と全国科学博物館協議会(ともに1983年に加入)、北海道博物館協会(1982年に加入)、日胆地区博物館等連絡協議会(準備委員会から参加)に加盟している。(櫻井・地徳、2000を参照)。

(2) 資料交換 当館発行の研究報告や館報を、国内外の関係機関(博物館、大学、個人研究者等)へ送付、発行文献をお互いに交換している。国内313カ所・国外21カ所(9カ国)の計335カ所で、主な送付先は博物館等が176(国内157、国外19)、大学が60、研究機関が9、研究者個人宛が59などである(2004年3月31日現在、詳細は表4を参照)。また、前述の「ホッピーだより」についても道内外十数カ所の博物館・関係団体へ送付している。

(3) 北海道化石サミット 化石を産出する北海道の市町村の首長会議、立ち遅れている化石の保護対策や研究設備の充実等について、対策と情報交流を目的として開催された。あくまでも行政側の要請によってできたネットワークであるが、同行した専門職員同士の交流も図られてきた。1996年に穂別町で始まり、沼田町(1997年)、足寄町(1998年)と続き、1999年の小平町にて終了した。(櫻井・地徳、2000)

II 来館者等

開館以来の合計入館者数は、1991年に延べ10万人を達成、1999年に延べ30万人を達成した。

年間の入館者数は、開館(1982年)～1990年が1万人弱～1万人台前半で、地球体験館の開館(1991年)・博物館展示更新(1992年)～1997年に2万人弱～3万人強(最大は1993年の35,035人)を記録したが、1998年以降は1万～2万人弱を維持している。2003年度の入館者数は、前年比でやや落ち込み13,500人で、述べ人数は377,296人である。詳細は図2を参照。

1999年の調査では、来館者はその大部分が町外から初めて訪れており、家族連れで観光を目的として訪れる場合が多い(櫻井、2000b)。近年は学校の修学旅行や研修旅行等の団体利用者の減少に伴い、来

館者全体における家族連れの利用率はますます大きくなってきている感がある。常設展・特別展を作る上で、この点を考慮する必要があるだろう。また、学校週五日制の導入に伴い、町内の児童生徒および引率者については入館料を免除したところ、土曜日や日曜日には一定数の利用があり、2003年度はのべ357人が見学に訪れた（うち、引率9人）。

Ⅲ 穂別町立博物館の20年

穂別町立博物館の20年の出来事および、開館のきっかけとなった長頸竜化石の発見まで遡った歴史を表5に示す。ここではその歴史を、特徴的な出来事によっていくつかの区切って紹介する。

1. 長頸竜化石の発見と博物館建設計画

(1975～1980年)

1975年に荒木 新太郎（町内在住）が長頸竜化石を発見、これをきっかけとして北海道開拓記念館・北海道大学・穂別町教育委員会によって「穂別町首長竜化石発掘調査団」が組織され、1977年7月5～8日に穂別町内にて発掘調査が行われた。この際に発見された長頸竜化石は仲谷英夫（京都大学、当時）によって研究がなされ、全身骨格復元の準備が進められた。この標本には、後に「ホベツアラキリュウ」という和名（標本名）が付けられ（仲谷、1989）、一般公募により「ホッピー」という愛称が選ばれた。当館は当初は「穂別町郷土資料館」として計画されたが、建設計画中に「穂別町立博物館」と名称変更された（1980年）。

2. 博物館の建設と開館（1981～1983年）

1981年9月に鈴木 茂が初代学芸員に着任、1982年7月20日に穂別町立博物館は開館した。当日は関係者を招いて開館記念式典が開催された。その後、ホベツアラキリュウの全身復元骨格がシンボル展示として入口ホールに設置された（12月19日）。活動方針は、「本町で発見される化石（自然史）」の研究・保存・普及と「町の歴史（人文）」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館であった。博物館の形は、長頸竜とアンモナイトからデザインされている。1983年3月には博物館法による登録博物館としての指定（北博登第28号）を受け、1982年11月に北海道博物館協会、1983年4月に日本博物館協会、同8月に全国科学博物館協議会にそれぞれ加入している。現在も刊行が続く博物館広報紙「ホッピーだより」は1983年4月に創刊された。

3. 穂別の化石研究の始まり（1984～1989年）

博物館の開館により、穂別地域における本格的な

化石研究が始まった。1984年には研究報告第1号が発行され、穂別産デスモスチルス記載論文（木村・赤松、1984）、穂別産ウミガメ化石の論文（平山・鈴木、1985）、ホベツモササウルス記載論文（鈴木、1986）、ホベツアラキリュウ記載論文（仲谷、1989）、穂別産アンモナイト記載論文（松本、1989ほか）など、研究成果が相次いで公表された。国内はもとより、国外の研究者も見学に訪れている。普及活動もひんぱんに行われ、化石クリーニングは春～秋の半年間に随時開催されている。1988年には、「ぎふ中部未来博」に株式会社ズスケンが出展したパビリオン「健康地球館」にホベツアラキリュウ（コピー）が展示された。1989年には学芸員がカナダのティレル古生物博物館を訪問した。同年、北海道博物館協会の学芸職員研修会が当館を会場に開催されている。

なお、1985年5月からは、鈴木にかわって地徳 力が学芸員として着任した。

4. 展示更新（1990～1992年）

開館後約10年が経過し、その間に重要な自然史資料が蓄積される一方で、人文系資料の保存活動にも相当な作業量を要することから、活動方針の変更が行われた。新たな活動方針は、「穂別地域で産出する古生物（化石）を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。現在に至る、穂別地域の化石を中心とする博物館に方針転換が行われた。穂別地球体験館の開館（1991年10月）に合わせて、1992年4月より新規展示を公開した。この間、カナダ・ドラムヘラー市のティレル古生物博物館との交流が進んだ。1990年にはティレル博物館の研究者やドラムヘラーの市長夫妻が視察に訪れ、1992年には古生物学者フィリップ・カーリーが来館、特別講演を行った。その他、1991年4月には累計入館者数が10万人を達成し、同年10月5日には隣接する穂別地球体験館が開館している。

4. 発掘20周年へ向けて（1993～1997年）

1994年4月に川上 源太郎が学芸員として着任、この後1999年3月までの5年間は化石・地質の学芸員2名の体制となる。1995年にはティレル古生物博物館に二ヶ月間の研修に訪れている。1996年には、第1回となる「'96北海道化石サミット」が穂別町にて開催された。同年、メソダームケリスの記載論文が公表されている（平山・地徳、1996）。1997年5月には胆振・日高地域の博物館を対象とした、「日胆地区博物館等連絡協議会」が設立される。1997年7月6日には、博物館開館のきっかけとなった長頸竜化石「ホベツアラキリュウ」の発掘20周年を記念して、この化石を研究した仲谷英夫（香川大学 助

教授)を講師に迎えて記念講演が開催された。合わせて特別展「クビナガリュウ発掘 20 周年パネル展」が開催された。展示更新後一時中断していた特別展は、以後、毎年開催されることとなる。

5. 開館 20 周年へ向けて (1998~2002 年)

1998 年 4 月に、川上にかわって筆者の一人である櫻井が学芸員として着任した。穂別町富内地域に露出している白亜紀層を題材にした「富内イギリス海岸」や、穂別川・鶴川の川原の石から穂別の成り立ちを知る「川原の石の観察会」、穂別の自然や化石を知る「ホッピー探検隊」、「ほべつ道民の森」の自然に親しむ「ほべつの森の観察会」など、地域に根ざした普及活動が実施された。1999 年 5 月には、累計入館者数 30 万人を達成した。

博物館の開館 20 周年にあたる 2002 年には、開館記念日の 7 月 20 日に記念講演・討論会「化石の里(まち)の博物館」が開催された。穂別産のカメ化石の研究を担っている平山 廉(帝京平成大学 助教授)、開館以来の歴代学芸員(鈴木 茂、地徳 力、川上 源太郎)と筆者の一人である現任の櫻井、そして北海道開拓記念館の赤松守雄特別学芸員を講師として迎えた。その他、特別展や、博物館協力会による企画展「穂別の化石」、千歳化石会との共催事業「化石クリーニングとレプリカづくり」などが記念事業として実施された(詳細は、穂別町立博物館 20 周年実行委員会, 2004 を参照)。

6. 開館 30 周年へ向けて (2003 年~)

2003 年は、ホッピー探検隊 2003、ほべつの森の観察会(夏と秋)、冬の星座観察会など、事業の実施内容は多岐に渡った。その一方で、普及事業に占める化石・地質の割合が小さくなってしまったという反省がある。その中、町民に博物館を利用してもらおうと、「特別展示室開放事業」が 2004 年にかけて始まった。また、北海道横断自動車道の建設工事が穂別地域でも始まり、これに伴って現地調査を実施した。穂別の化石を題材とした地域に根ざした博物館という原点に改めて立ち返る時期であろう。

まとめ

開館のきっかけとなった長頸竜化石の発掘から開館 20 周年を迎えた 2002 年を含めた当館の活動を振り返った。現在、化石と地質の専門館として当館があるのは、動物化石が豊富に産出するという穂別町の特性と長頸竜化石「ホベツアラキリュウ」の発見に大きく因っているのはもちろんのこと、歴代の学芸員のみならず、関係者の不断の努力や、町民や利

用者の理解と支持、外部の研究者の協力があったからである。前述の「開館 20 周年記念講演・討論会」にて、開館以前より当館を指導している赤松は、「穂別町立博物館は、北海道の町村レベルの博物館の原点である」と述べた。また、亀井節夫(元・京都大学理学部教授)は、穂別町立博物館の開館へ寄せて、「穂別町立博物館には...(中略)...地域住民と密着して、古脊椎動物学を通して、地域的特色に内在する一般性をひき出し、国際社会へ寄与することが期待されている」と述べている(亀井, 1984)。これは、開館から 20 年が経過した現在にあっても、指針となり得る提言ではないだろうか。

文 献

- 地徳 力, 1990. 穂別町立博物館所蔵の脊椎動物化石について. 穂別町立博物館研究報告. 6. p. 25-35.
- 地徳 力, 1994. 北海道穂別地域産ティロサウルス(モササウルス類)について. 穂別町立博物館研究報告, 10. p. 39-54.
- 穂別町立博物館, 1993. 穂別町立博物館ガイドブック. 穂別町立博物館. 49pp.
- 穂別町立博物館, 1985~2003. 穂別町立博物館館報. 第 1 号~第 20 号.
- 穂別町立博物館 20 周年実行委員会, 2004. 穂別町立博物館 20 周年記念事業の記録. 穂別町立博物館研究報告, 19. p. 1-44.
- 亀井節夫, 1984. 穂別町立博物館と日本の古脊椎動物学. 穂別町立博物館研究報告. 1. p. 3-9.
- 村上 隆, 1983. よみがえるクビナガリュウ. 穂別町立博物館. 59pp.
- 仲谷英夫, 1989. 北海道穂別町より産出した長頸竜化石(HMG-1)(爬虫綱, 広弓亜綱, 鱗竜目, 長頸竜亜目, プレシオサウルス上科, エラスモサウルス科)の『和名』について. 穂別町立博物館研究報告. 5. P. 43-48.
- 櫻井和彦, 2000a. 小規模博物館学芸員の業務内容の実際 - 穂別町立博物館における 1998-1999 年度の実例 -. 穂別町立博物館研究報告. 16. p. 9-28.
- 櫻井和彦, 2000b. 穂別町立博物館の来館者の傾向 -1999 年度調査結果より-. 穂別町立博物館研究報告. 16. p. 29-40.
- 櫻井和彦, 2003. 穂別町立博物館における地域素材の活用例-「富内イギリス海岸」, 「穂別の川原の石」, 「ホッピー探検隊」-. 穂別町立博物館研究報告. 18. p. 1-20.
- 櫻井和彦・伊藤あゆ子・高橋義道, 2003. 「ほべつ道民の森」で実施した自然観察会. 穂別町立博物館研究報告. 18. p. 21-32.
- 櫻井和彦・地徳 力, 2000. 北海道の博物館ネットワーク. 地学教育と科学運動, 34 号. p. 41-46.
- 櫻井和彦・地徳 力・渋谷直憲, 1999. 北海道穂別町から産出した Mosasaurus(爬虫綱, モササウルス科)の一新種. 穂別町立博物館研究報告. 第 15 号. p. 53-66.
- 鈴木 , 1985b. 北海道穂別町の上部白亜系函淵層群産海棲トカゲ Mosasaurus の一新種. 海生脊椎動物の進化と適応, 地研専報. 30. p. 45-66.

櫻井和彦・村上 隆, 2004. 穂別町立博物館の20年-クビナガリュウ‘ホッピー’と歩んだ博物館の歴史-. 穂別町立博物館研究報告, 20, 1-25.

Kazuhiko SAKURAI and Takashi Murakami, 2004. Twenty years of Hobetsu Museum -The history with 'Hoppy', a swan lizard in Hobetsu-. *The Bulletin of the Hobetsu Museum*, 20, 1-25.

(要 旨)

穂別町立博物館は、北海道の中央部に位置する穂別町の化石と地質を題材とした博物館である。1977年の長頸竜化石「ホベツアラキリュウ」の発掘がきっかけとなり 1982年に開館した当館は、1992年の展示更新を経て、現在のように穂別の地史を紹介する博物館となった。この間、穂別地域の化石・地質を題材として収集活動、研究活動、普及活動が行われてきた。2002年に開館20周年を記念し、年間を通じて記念事業が実施された。本論は、その歴史を記録として残すことと、今後の博物館活動の展望を目的として、穂別町立博物館の20年を振り返るものである。

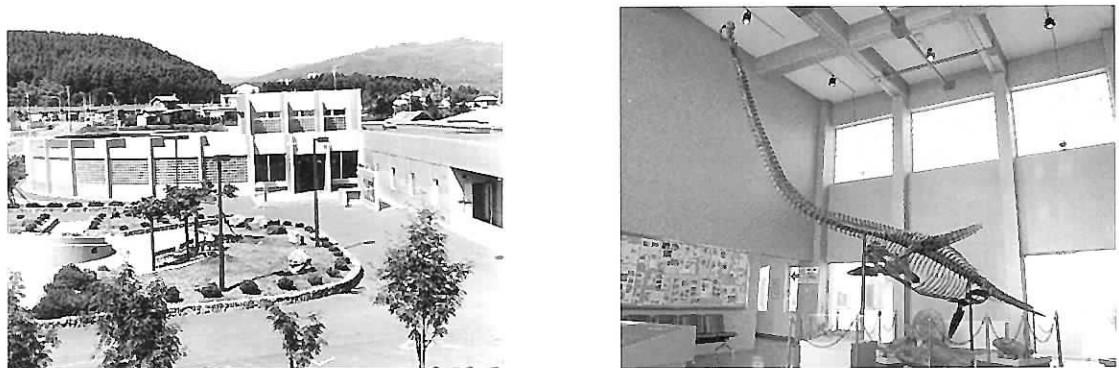


図1 穂別町立博物館の概観（開館当時、1984年撮影）（左）と長頸竜ホベツアラキリュウの全身復元骨格（右）

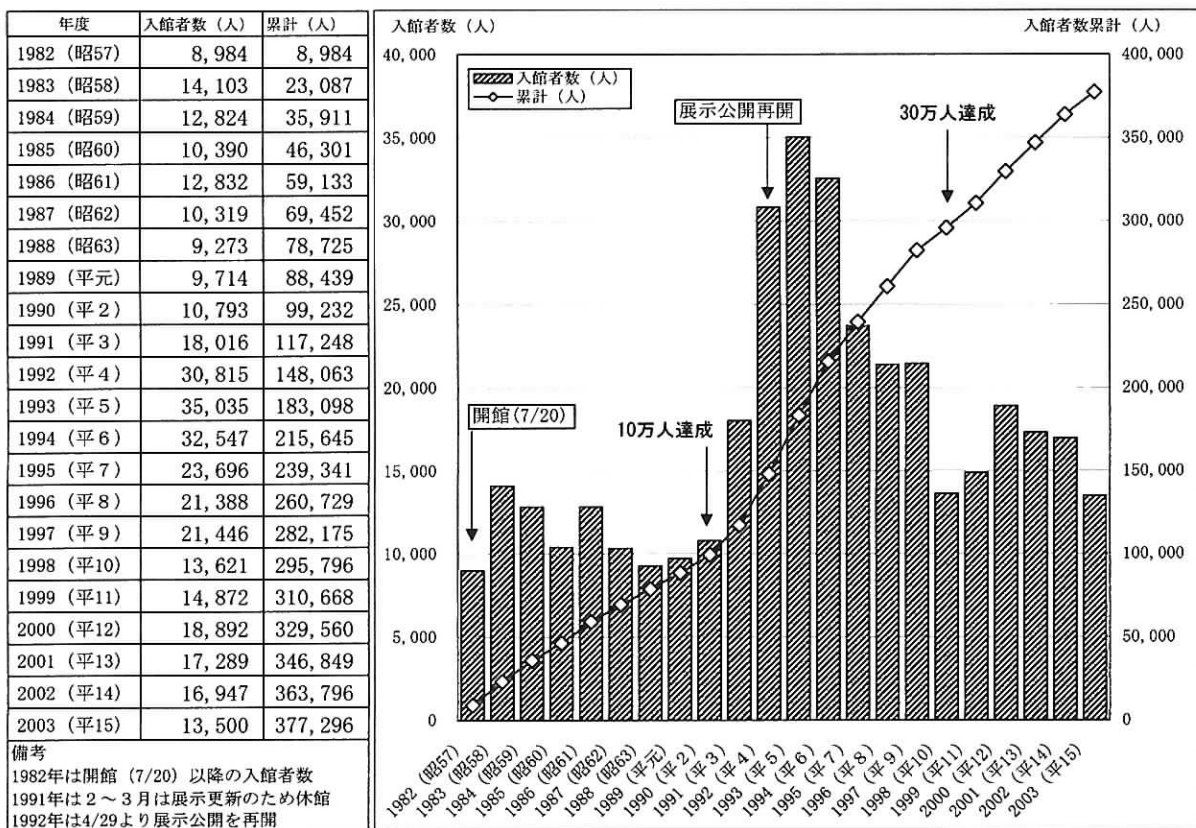


図2 入館者数の変遷（1982年～2003年）



図3 開館当時の展示室見取り図(1982年～)

開館当時は、長頸竜を代表とする古生物と、穂別町の開拓に使用された各種の道具類を広く展示し、それらの理解とともに、未来の穂別を創造する手がかりとなるよう配慮されていた。展示は、1. ようこそ博物館へ、2. 変化ある地形と地質、3. 海だった穂別、4. 人類の出現、5. 道具の発達と生産、6. 生活の変化と文化の創造、7. 新しい町づくりをめざして、の7つのテーマからなる。(穂別町立博物館報 第1号、1985より)

右の写真は、「海だった穂別」の中生代の化石(上)と「生活の変化と文化の創造」の食生活用具(下)

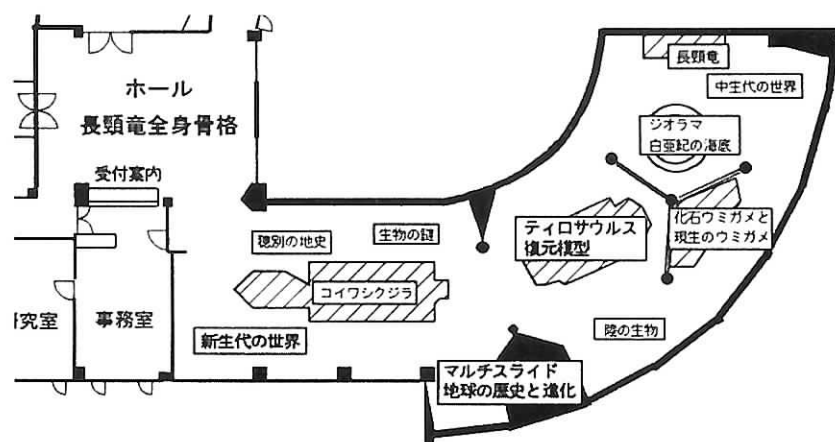


図4 展示更新後の展示室見取り図(1992年～)

展示更新により、化石の博物館として内容を一新した。化石を、我々人間につながる生き物として見ることを基本に置き、実物は穂別地域産にこだわり、復元模型は生きていたときの姿にこだわった。展示はティロサウルス復元模型やアンモナイトを紹介する中生代の世界と、現生クジラ骨格や哺乳類化石を紹介する新生代の世界、そして穂別の地史・地質を紹介するコーナーからなる。(穂別町立博物館報 第10号、1993ほか)

右の写真は、穂別と地質と新生代の化石(現生クジラ骨格、上)と中生代の化石(ティロサウルス復元模型、下)

開催期間	タイトル	内容	備考
1982年12月19日-1983年1月23日	よみがえるクビナガリュウ	一般公開された長頸竜復元骨格について、発掘から復元までを振り返り、また、同時代の生物を穂別町内から産出した化石を用いて紹介。	第1回特別展
1983年7月22日-8月7日	地図展	地図のいろいろ(地形図、地質図、植生図、自動車網路線図など)、穂別の地図(地形図、郵便局郵便区全図、鶴川穂別中島平面図など)。	第1回収蔵資料展
1983年11月1日-3日	こけし展	伝統こけし、新作こけし、郷土玩具の展示	第2回収蔵資料展
1984年11月1日-4日	古い写真・古い文書展	寄贈された写真や文書の中から時代の古いものを展示。	第3回収蔵資料展
1985年11月1日-10日	北海道一億年	北海道開拓記念館特別展の移動展として開催。フタバズキリュウ(いわき市)などの他、町内から発見された脊椎動物化石を展示。	第2回特別展示
1986年10月21日-11月9日	穂別の自然	第30回穂別町民文化祭の特別展示として開催。穂別町内に生息する動植物の標本を中心に展示。砂金堀りなどのビデオも上映。	第3回特別展
1987年7月28日-8月9日	アンモナイトの系図	アンモナイトの系統、形態、種類、生態、穂別で採取できるアンモナイトなどについて紹介。	第4回特別展
1988年8月23日-9月4日	穂別のカメ化石	穂別町内から産出するウミガメ化石(メソダーモケリス)、カメの系統、カメの祖先の復元図、カメの骨格について展示。	第5回特別展
1989年7月18日-8月20日	穂別のむかし =写真で見る穂別の歴史=	写真で穂別の歴史を振り返る。穂別の産業、生活の紹介。穂別町市街図、旧住宅内部の展示。	第6回特別展
1990年8月18日-9月16日	戦争と穂別	第二次世界大戦が穂別町に与えた影響を紹介。戦争関連資料の展示。	第7回特別展
1997年7月6日、7月10日-8月31日	クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展	長頸竜化石発掘から20年の経過を記念し、発掘当時をパネルで振り返る。7月6日は記念式典の会場にて、7月10日から特別展示室にて展示。	第8回特別展
1998年8月11日-31日	地球物語り(地質学普及書の近代史)	佐々保雄氏(北海道大学名誉教授)より寄贈された資料を元に、地質学普及書の変遷を展示。時代や世界情勢の変化に伴う普及書の歴史を紹介。	第9回特別展
1999年8月1日-31日	滄龍の泳いだ海-7,000万年前の穂別-	海だった穂別を泳いでいた滄龍(モササウルス類)の紹介。東アジアで最初の発見となったホベツモササウルスの他、当館所蔵の化石を紹介。	第10回特別展
1999年10月5日-11月28日	穂別の自然	穂別町内に生息する植物をパネル等で紹介。地域住民からの寄贈資料をもとに開催。	第11回特別展
2000年8月1日-31日、9月17日-10月1日	穂別の石-川原の石から見た穂別-	町内10地点の川原で採集した岩石標本や、町内で採集した岩石をもとに、穂別町内に分布する岩石・地質について紹介。鉱物標本なども展示。	第12回特別展
2001年8月1日-25日	穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-	博物館の20年の歴史を、ホベツアラキリュウ発掘の写真、当時の博物館活動の写真や広報紙「ホッピーだより」で紹介。開館20周年を翌年に控えて開催。	第13回特別展
2002年4月28日-5月17日	ツノのある奇妙なカメ-海の穂別からリクガメ化石の発見	新属新種として記載された穂別産リクガメ化石アノマロケリスの実物化石を、学名とともに公開。研究報告で記載されたアンモナイトの展示も同時開催。	第14回特別展
2002年7月1日-21日	穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-	2001年特別展に、2001~2002年分を加えて再公開。20周年記念事業の一環として実施。7月20日の「記念講演・討論会」に先がけて、博物館の歴史を紹介。	第15回特別展
2002年7月27日-8月9日	穂別町立博物館協会「穂別の化石」	穂別町立博物館協会による企画展。会員の所有する化石と、博物館協会の活動を紹介します。	企画展
2002年8月31日-9月27日	穂別のカメ化石~恐竜時代のウミガメとリクガメ	穂別で特徴的に産出するウミガメ化石(メソダーモケリス)とリクガメ化石(アノマロケリス)という、白亜紀(恐竜時代)のカメ化石を紹介。	第16回特別展
2003年7月20日-8月31日	穂別を泳いだモササウルス	穂別で産出しているモササウルスについて紹介し、当時の環境についての理解を深める。特別展会場にてモササウルスの歯のレプリカ作成体験を実施。	第17回特別展
2003年11月1日-2004年1月31日	虫とくらし	北海道開拓記念館との共催事業の一環。同館にて平成14年度に公開された第134回テーマ展の展示資料や解説パネルを借用し、我々日本人の生活と虫との関わりについて紹介した。	第18回特別展

表1 これまでに実施した特別展(1982年~2003年)

掲載号・著者・タイトル	頁	分類
第1号(1984年)		
菅原康次：創刊のことば	1	その他
北川芳男：研究報告の発刊によせて	2	その他
亀井節夫：穂別町立博物館と日本の古脊椎動物学	3-9	博物館活動
木村方一・赤松守雄：北海道穂別町産デスマスチルスについて(第1報)	11-23	古生物
八幡とも子・赤松守雄：北海道から産出する <i>Patinopecten kobyamai</i> について	25-31	古生物
久家直之：北海道勇払郡穂別町産の長頸竜化石にともなう板鰓類化石について	33-36	古生物
仲谷英夫：穂別町産クビナガリュウ(長頸竜)の復元	37-40	古生物
仲谷英夫・久家直之：大型化石の模型製作法について-穂別町産長頸竜化石の経験から-	41-46	古生物
鈴木 茂：北海道穂別町産白亜紀爬虫類化石について(予報)	47-52	古生物
第2号(1985年)		
高橋功二・和田信彦：穂別町の地質	1-15	地質
平山 廉・鈴木茂：北海道穂別町の函洞層群産白亜紀ウミガメ化石について(予報)	17-30	古生物
鈴木 茂：中央北海道南部の上部白亜系産モササウルス化石について(予報)	31-42	古生物
仲谷英夫：北海道穂別町より産出した長頸竜化石(HMG1)について(予報)	43-49	古生物
木村方一：北海道穂別町産デスマスチルスについて(第2報)	51-62	古生物
笠巻袈裟男・鈴木茂：北海道穂別町大崩れ蛇紋岩崩壊地の植物目録	63-68	現生生物
第3号(1986年)		
紀藤典夫・海保邦夫・高橋功二・和田信彦：北海道穂別産長頸竜化石の地質年代	1-7	古生物
加藤幸幸・中島正博・国分英彦：穂別町富内鉱山のクロム鉄鉱石	8-14	地質
中川充：北海道穂別町富内鉱山産の含クロムハイドログロシュラーについて	15-24	地質
地徳 力：北海道穂別町付近に分布する白亜紀地層レキシコン	25-33	地質
第4号(1987年)		
地徳 力：石灰質岩石からの微化石の産出とその保存状態	1-9	古生物
国分英彦：北海道勇払郡古冠村ニニウ地域における神居古潭帯の蛇紋岩類の進入時期	11-22	地質
鎌田耕太郎・地徳 力：砂川低地帯東縁の鮮新統滝川層に見られる潮汐三角州堆積物(予報)	23-31	地質
新井田清信・福井俊之：北海道富内北方地域の堆積性蛇紋岩	33-48	地質
第5号(1989年)		
松本達郎：北海道穂別産の巨大アンモナイト	1-11	古生物
松本達郎・野田雅之・利光誠一：穂別立博物館の巨大アンモナイト-その産出記録と層位-	13-25	古生物
谷本正浩・大倉正敏：富山県朝日町大平川(来馬層群)から発見されたプレシオサウルス	27-32	古生物
地徳 力：穂別町立博物館の資料登録について-博物館資料の整理におけるパソコンの導入-	33-42	博物館活動
仲谷英夫：北海道穂別町より産出した長頸竜化石(HMG1)(爬虫綱、広弓亜綱、鱉目、長頸竜亜目、プレシオサウルス上科、エラスモサウルス科)『和名』について	43-48	古生物
第6号(1990年)		
松本達郎：北海道登川産コスマチケラス科アンモナイトならびに関連属種についての所見	1-14	古生物
太田英順・中川充：穂別町福山産砂白金	15-23	地質
地徳 力：穂別町立博物館所蔵の脊椎動物化石について	25-35	古生物
地徳 力：ティーレル古生物学博物館とドラムヘラー市	37-46	博物館活動
第7号(1991年)		
松本達郎・利光誠一：北海道穂別町富内北方からセノマニアン アンモナイトの発見	1-8	古生物
紀藤典夫・地徳 力：北海道穂別町産海トカゲ化石の地質年代	9-14	古生物
一島啓人：滝川産アシカ科中手骨化石について	15-21	古生物
第8号(1992年)		
松本達郎・利光誠一：北海道穂別産の示準アンモナイト種 <i>Pachydiscus kobayashii</i> について	1-16	古生物
平山 廉：ウミガメ上科における上腕骨の形態的多様性	17-57	古生物
第9号(1993年)		
松本達郎・利光誠一・野田雅之：北海道穂別地域産白亜紀マストリヒチアンのイノセラムス種 <i>Sphenocerasus hetonaianus</i> について	1-20	古生物
長谷川卓・利光誠一：穂別町安住地域における <i>Inoceramus (Platycerasus) japonicus</i> および浮遊性微化石の産出層位関係	21-28	古生物
木村方一・鈴木 茂・山下 茂：北海道沼田町の上白亜系からモササウルス類と長頸竜化石の発見	29-36	古生物
一島啓人：北海道穂別町滝の上層産出の化石イルカ	37-43	古生物

表2 研究報告 掲載論文一覧(第1号~第9号)

掲載号・著者・タイトル	頁	分類
第10号 (1994年)		
松本達郎・野田雅之・蟹江康光・吉川幸叙・利光誠一・米谷盛壽郎・花方 聡：北海道穂別地域におけるセノマニアン・チューロニアン推移部の層序	1-25	地質
利光誠一：北海道穂別町稲里地域の白亜系中部より産出した生痕化石 <i>Zoophycos</i> 及び <i>Chondrites</i> について	27-33	古生物
利光誠一：北海道穂別町富内地域フウカシ沢川から産出した <i>Inoceramus (Platyceramus) japonicus</i> の地質学的意義	35-38	古生物
地徳 力：北海道穂別地域産ティロサウルス（モササウルス類）について	39-54	古生物
第11号 (1995年)		
松本達郎・利光誠一：北海道穂別地域産 <i>Gaudryceras Matsumoto</i> の再研究（北海道産白亜紀アンモナイトの研究-75）	1-16	古生物
川上源太郎・川村信人・地徳 力・渋谷直憲：粗粒重力流堆積物パイルに認められる液状化・流動現象 -北海道、穂別地域の川端層礫岩を例として-	17-28	地質
地徳 力：博物館活動における情報リレーション	29-36	博物館活動
地徳 力：博物館活動と小規模館の”学芸員”の業務についての考察	37-46	博物館活動
第12号 (1996年)		
Tatsuro Matsumoto and Seiichi Toshimitsu: A phylloceratid ammonite species from the Maastrichtian of the Hobetsu district, Hokkaido. (Studies of the Cretaceous ammonites from Hokkaido-LXXVIII)	1-8	古生物
川上源太郎：研究報告 -カナダ、ティレル古生物学博物館の博物館活動	9-15	博物館活動
地徳 力：北海道遠別産、翼竜の頸椎	17-24	古生物
第13号 (1997年)		
木村方一・広田清治・清野智佳子：北海道羽幌町の中期中新統から産出した鱈脚類下顎骨化石について	1-7	古生物
古江良治・新井田清信・加藤孝幸：神居古潭帯のオフィオライト質クロミタイトの成因	9-26	地質
川上源太郎：北海道穂別地域に分布する、中新世堆積岩類の岩相	27-42	地質
地徳 力：穂別町立博物館に寄贈された佐々保雄名誉教授一括資料について	43-68	その他
第14号 (1998年)		
紀藤紀夫・平山 廉・川上源太郎：北海道上部白亜系より産出したリクガメ化石の地質時代	1-6	古生物
笠巻袈裟男・川上源太郎：北海道穂別町富内におけるバンクルモンの分布	7-12	現生生物
地徳 力：地質学普及書の近代史	13-31	その他
地徳 力：佐々保雄名誉教授の全業績	33-40	その他
地徳 力：北海道博物館協会学芸職員部会：1996年・学芸職員の身分と業務を取り巻く環境に関するアンケートより	41-60	その他
第15号 (1999年)		
地徳 力：地学辞典小史	1-15	その他
地徳 力：日高山脈研究論文目録	17-51	地質学
櫻井和彦・地徳 力・渋谷直憲：北海道穂別町から産出した <i>Mosasaurus</i> （爬虫綱、モササウルス科）の一新種	53-66	古生物
第16号 (2000年)		
利光誠一・長谷川卓：穂別町安住地区および夕張市登川地区におけるサントニアン～カンパニアン（上部白亜系）の層序について	1-7	地質
櫻井和彦：小規模博物館学芸員の業務内容の実際 -穂別町立博物館における1998-1999年度の実例	9-28	博物館活動
櫻井和彦：穂別町立博物館の来館者の傾向-1999年度の調査より	29-40	博物館活動
第17号 (2002年)		
新井田清信：北海道中軸帯南部の東西地質断面「穂別-岩知志-幌尻岳」	1-10	地質
第18号 (2003年)		
櫻井和彦：穂別町立博物館における地域素材の活用例 -「富内イギリス海岸」, 「穂別の川原の石」, 「ホッピー探検隊」-	1-20	博物館活動
櫻井和彦・伊藤あゆ子・高橋義道：「穂別道民の森」で実施した自然観察会	21-32	博物館活動
第19号 (2004年)		
穂別町立博物館20周年実行委員会：穂別町立博物館20周年記念事業の記録	1-44	博物館活動

表2 (続き) 研究報告 掲載論文一覧 (第10号~第19号)

No.	発行	タイトル	No.	発行	タイトル
1983 (昭和58) 年度			1989 (平成元年) 年度		
1	4月	ホッピーだよりの発行にあたって	54	7月	!!!君にも化石がとれる!!! (その2. きれいな化石をとるには編)
2	5月	館長就任にあたって	55	8月	!!!君にも化石がとれる!!! (その3. 化石クリーニング)
3	6月	常設展示の一部展示変えのお知らせ	56	9月	!!!君にも化石がとれる!!! (その4. 化石のそっくりさんをつくってみよう)
4	7月	化石のはなし-モササウルス-	57	10月	!!!君にも化石がとれる!!! (その5. どこが化石? どれが化石?)
5	8月	開かれた博物館として	58	11月	!!!君にも化石がとれる!!! (その6. 化石の声を聞く?!!)
6	9月	化石のはなし-ウミガメ-	59	12月	!!!君にも化石がとれる!!! (その7. 化石の声を聞く?!!)
7	10月	化石のはなし-デスマスチルス-	60	1月	!!!謹賀新年!!! 今月号のテーマは「へび・へび・蛇」の話
8	11月	化石のはなし-イノセラムス-	61	2月	!!!君にも化石がとれる!!! (その8. 恐竜を作ろう!?)
9	12月	化石のはなし-アンモナイト-	62	3月	!!!君にも化石がとれる!!! (その9. 化石を作ろう!?)
10	1月	年頭にあたって	1990 (平成2) 年度		
11	2月	「よみがえるクビナガリュウ」ついに完成	63	4月	御礼=昭和63年度博物館収蔵資料について=
12	3月	博物館紹介 化石を展示している博物館 (道内編)	64	5月	恐竜博物館への路(その1) (タイレル古生物博物館との交流)
1984 (昭和59) 年度			65	6月	恐竜博物館への路(その2) (タイレル古生物博物館との交流)
13	4月	博物館紹介 化石を展示している博物館 (道外編)	66	7月	恐竜博物館への路(その3) (タイレル古生物博物館情報)
14	5月	日本地質学会第91年学術大会に出席して	67	8月	恐竜博物館への路(その4) (ドラムヘラーとその周辺)
15	6月	化石のはなし-サメ-	68	9月	ホベツアラクリュウ研究, 一段落 (論文, 学会誌に載る)
16	7月	化石図書案内 (その1)	69	10月	カナダからの手紙 (総別版)
17	8月	化石・地質図書案内 (その2)	70	11月	カナダからの手紙 (総別版, その2)
18	9月	化石と地質の図書案内 (その3) アンモナイト鑑定に役立つ本	71	12月	カナダからの手紙 (総別版, その3)
19	10月	化石ニュース	72	1月	!!!謹賀新年!!! 今月号のテーマは「馬・牛・ウマ」の
20	11月	化石のクリーニング法-骨化石の場合-	73	2月	カナダからの手紙 (総別版, その4)
21	12月	どうぞよろしく!!-館長就任にあたって-	74	3月	カナダからの手紙 (総別版, その5)
22	1月	牛のはなし	1991 (平成3) 年度		
23	2月	穂別町宇安住から発見された謎の化石哺乳類デスマスチルスについて	75	4月	=御礼=(平成2年度:1989年博物館収集資料について)
24	3月	博物館を考える-「もの」について-	76	5月	穂別の地質を学ぶために (その1)
1985 (昭和60) 年度			77	6月	穂別の地質を学ぶために (その2)
25	2月	復刊しました! 今回のテーマは「化石の意味」です	78	7月	穂別の地質を学ぶために (その3)
26	3月	ハレー彗星そして古生物たち	79	8月	穂別の地質を学ぶために (その4)
1986 (昭和61) 年度			80	9月	穂別の地質を学ぶために (その5)
27	4月	大きな化石 小さな化石	81	10月	穂別の地質を学ぶために (その6)
28	5月	ホッピークイズ (その1) ホッピーはオス?メス?	82	11月	穂別の地質を学ぶために (その7: 穂別町構造発達史1)
29	6月	ホッピークイズ (その2) ホッピーは大人?子ども?	83	12月	穂別の地質を学ぶために (その7: 穂別町構造発達史1')
30	7月	ホッピークイズ (その3) 赤ちゃんはタマゴでうまれるか?	84	1月	!!!謹賀新年!!! 今月号のテーマは「羊・未・ヒツジ」そして、なぜかアンモナイト?
31	8月	夏休み宿題アイデア特集	85	2月	穂別の地質を学ぶために (その8: 穂別町構造発達史2)
32	9月	博物館ってどんなところ?	86	3月	穂別の地質を学ぶために (その9: 穂別町構造発達史3)
33	10月	学名散歩	1992 (平成4) 年度		
34	11月	学名散歩 (その2)	87	4月	=御礼=(平成2年度:1990年博物館収集資料について)
35	12月	!!!三原山噴火!!!	88	5月	穂別の地質を学ぶために (その10: 穂別町構造発達史4)
36	1月	謹賀新年	89	6月	緊急特集「雲仙岳噴火!!!」
37	2月	御礼=寄贈された脊椎動物化石=	90	7月	穂別の地質を学ぶために (その11: 穂別町構造発達史5)
38	3月	御礼 (その2)	91	8月	穂別の地質を学ぶために (その12: 穂別町構造発達史6)
1987 (昭和62) 年度			92	9月	穂別の地質を学ぶために (その13: 穂別町構造発達史7)
39	4月	恐竜の本の紹介	93	10月	ホッピー君の「地球体験館」見学記
40	5月	!!こんなことやってみませんか!!=その1=(ゴミを拾いながら)	94	11月	こんなふうになる!?「常設展・展示替え」
41	6月	!!こんなことやってみませんか!!=その2=(崖を見よう)	95	12月	こんなふうになる!?「白亜紀の世界 (白亜紀の海底世界)」
42	7月	!!こんなことやってみませんか!!=その3=(河原の植物群落)	96	1月	=謹賀新年=「サル・申・猿の話」
43	8月	!!こんなことやってみませんか!!=その4=(底生動物を調べる)	97	2月	もうすぐ復刊!!=博物館近況=
44	9月	日食が見られます 9月23日	1993 (平成5) 年度		
45	10月	穂別町民度チェック あなたはどのぐらい博物館を知っているか?!(施設, 組織, 活動編)	98	1月	トリ・西・鳥の話し
46	11月	穂別町民度チェック あなたはどのぐらい博物館を知っているか?!(ようこそ博物館へ編)	99	2月	化石が亡びる?
47	12月	穂別町民度チェック あなたはどのぐらい博物館を知っているか?!(化石・古生物編)	100	3月	化石が亡びる? (その2)
48	1月	!!!謹賀新年!!! 今月号のテーマは「辰・竜・恐竜」	1994 (平成6) 年度		
49	2月	穂別町民度チェック あなたはどのぐらい博物館を知っているか?!(地形・地質編)	101	4月	地震の話
50	3月	穂別町民度チェック あなたはどのぐらい博物館を知っているか?!(人文編)	102	5月	=御礼=(平成4年度:1992年博物館収集資料について)
1988 (昭和63) 年度			103	6月	化石の里・トピックス
51	4月	御礼=昭和62年度博物館収集資料について=	104	7月	化石の里・トピックス
52	5月	=博物館近況=	105	8月	化石の里トピックス(3) 穂別地域で見られる生きている化石(1)
53	6月	!!!君にも化石がとれる!!! (その1. 基礎編)	106	9月	化石の里トピックス(4) 穂別地域で見られる生きている化石(2)
			107	10月	化石の里トピックス(5) 穂別地域で見られる生きている化石(3)
			108	11月	化石の里トピックス(6) 穂別地域で見られる生きている化石(4)
			109	12月	化石の里トピックス(7) 穂別地域で見られる生きている化石(5)
			110	1月	イヌ・犬・戌の話
			111	2月	化石の里トピックス(8) 穂別地域で見られる生きている化石(6)
			112	3月	化石の里トピックス(9) 生きている化石ってなに?

表3 博物館広報紙「ホッピーだよりの」 タイトル一覧 (No. 1~No. 112)

No.	発行	タイトル	No.	発行	タイトル
1994 (平成6) 年度					
113	4月	=御礼= (平成4年度:1992年博物館収集資料について)	175	6月	展示資料の紹介 (その2) - 滄竜
114	5月	はじめまして新任学芸員補の川上です。よろしくお願 いします	176	7月	展示資料の紹介 (その3) - 滄竜2
115	6月	地球科学の時代(1) NHKスペシャル“生命”をみて	177	8月	夏休み特集号 - 特別展示・博物館ツアー-
116	7月	地球科学の時代(2) 地球の内部と月の起源	178	9月	展示資料の紹介 (その4) - 古代ウミガメ
117	8月	地球科学の時代(3) プレートテクトニクス(1)	179	10月	秋の行事特集号 - 8・9月の行事
118	9月	夏休みは博物館も大忙し!	180	11月	学芸員の業務紹介-研修の秋
119	10月	地球科学の時代(4) プレートテクトニクス(2)	181	12月	展示資料の紹介 (その5) - ホベツケントリオドン
120	11月	地球科学の時代(5) 地震とプレート	182	1月	謹賀新年 - 今年はずつ年-
121	12月	宮沢賢治と地質学	183	2月	展示資料の紹介 (その6) - 白亜紀の総別
122	1月	あけましておめでとうございます	184	3月	常設展示室の紹介 - これが総別の博物館
123	2月	地球科学の時代(6) 生命の誕生	2000 (平成12) 年度		
124	3月	地球科学の時代(7) 兵庫県南部地震	185	4月	1999年活動紹介 - 資料収集、研究活動、普及事業-
1995 (平成7) 年度					
125	4月	博物館にご協力いただき、ありがとうございました。 -寄贈資料の報告-	186	5月	2000年度の博物館 - 学芸スタッフ・行事予定1
126	5月	地球科学の時代(8) - 生命の誕生2-	187	6月	博物館活動の紹介(1) - 資料の収集
127	6月	地球科学の時代(9) - 生命の誕生3-	188	7月	初夏の行事 - ホッピー探検隊ほか
128	7月	地球科学の時代(10) - 初期の生命-	189	8月	夏の行事 - 星座観察会ほか
129	8月	地球科学の時代(11) - 初期の生命2-	190	9月	博物館の活動(2) - 化石クリーニング-
130	9月	地球科学の時代(12) - 初期の生命3-	191	10月	秋の行事 - 富内のイギリス海岸ほか-
131	10月	カナダ研修旅行報告 - その1-	192	11月	研修の秋 - 日本地質学会・きのこウォッチング-
132	11月	カナダ研修旅行報告 - その2-	193	12月	秋の行事(2) - 川原で石を見よう-
133	12月	カナダ研修旅行報告 - その3-	194	1月	謹賀新年 - 今年はずつ年-
134	1月	1995年をふり返る~博物館活動報告~	195	2月	冬の星空 - 夜空を見上げよう-
135	2月	進化論って何?~“種”の概念~	196	3月	2000年の活動紹介
136	3月	ホベツケントリオドン~新種と判明~	2001 (平成13) 年度		
1996 (平成8) 年度					
137	4月	寄贈・収集資料紹介	197	4月	博物館、たんけん!
138	5月	進化論って何?~“種”を分けることの難しさ~	198	5月	博物館の活動(1・2)、-化石採集とクリーニング
139	6月	完成“かせき学習館”	199	6月	博物館の活動(3)、-6月の行事案内
140	7月	生物進化の流れを示す“系統樹”	200	7月	通算200号達成 - 夏の普及行事-
141	8月	巡検参加報告“後期更新世テフラ”	201	8月	2001年特別展 - 穂別町立博物館20年-
142	9月	モサゴンの仲間たち - 交換文献資料から-	202	9月	博物館の活動(4)、-調査・研究-
143	10月	近況報告 - 最近の活動から-	203	10月	博物館の活動(5)、-展示-
144	11月	地層の話 - その形成プロセス-	204	11月	秋の野外調査 - 秋の普及事業の紹介
145	12月	地層を調べる - 過去の記録を読む-	205	12月	博物館の活動(6)、-普及事業-
146	1月	地質図を描く1 - 柱状図と地層の対比-	206	1月	巨大アンモナイト - 採集から展示まで
147	2月	地質図を描く2 - 柱状図から地質図へ-	207	2月	冬の星座 - 2月の星空
148	3月	地質図を描く3 - 地質図の構造と地表分布-	208	3月	平成13年度の活動紹介
1997 (平成9) 年度					
149	4月	寄贈資料の紹介	2002 (平成14) 年度		
150	5月	本の紹介 - 地質学・古生物学を学ぶ-	209	4月	穂別町立博物館20周年のお知らせ
151	6月	白亜紀のオサガメ化石 - 新属・新種として記載される!-	210	5月	2002年特別展 ツノのある奇妙なカメ
152	7月	6500万年前の花粉 - 恐竜滅亡の手がかり-	211	6月	ホッピー探検隊2002
153	8月	松井孝典先生 穂別マザーズフォレスト賞受賞記念講演から	212	7月	開館20周年記念講演・討論会『化石の里(まち)の博物
154	9月	日本へクマが来た道(門崎,1996) - 交換資料から-	213	8月	記念講演・討論会の実施報告
155	10月	オシヨロ層について - 最近の調査から-	214	9月	2002年特別展 穂別のカメ化石~恐竜時代のウミガメ とリクガメ~
156	11月	ゴビの恐竜化石 - 地質学雑誌から-	215	10月	日本地質学会(報告)と研究者の来館
157	12月	地層の年代を知る - 放射年代測定法-	216	11月	化石クリーニングとレプリカづくりの紹介
158	1月	トラの話 - 干支シリーズ堂々の完結編-	217	12月	博物館20周年記念事業の報告
159	2月	博物館を活用する方法 - 交換資料の活用-	218	1月	干支の話 - 羊・未・ヒツジ-
160	3月	穂別の地形 - 地形図を見よう-	219	2月	今が見ごろ!木星と土星
1998 (平成10) 年度					
161	4月	寄贈資料の紹介	220	3月	冬の星空を観察 - 冬の星座観察会-
162	5月	はじめまして、桜井です - 空を飛ぶ動物(その1)	2003 (平成15) 年度		
163	6月	空を飛ぶ動物(その2)	221	4月	寄贈資料と採集資料の紹介
164	7月	海を泳ぐ動物(その1)	222	5月	新メンバーの紹介
165	8月	海を泳ぐ動物(その2) - 海を泳ぐ爬虫類-	223	6月	ほべつ道民の森でウォッチングしませんか・ホッピー探検隊 2003のお知らせ
166	9月	海を泳ぐ動物(その3) - 海を泳ぐ鳥類-	224	7月	穂別の自然に大満足!! - 穂別を泳いだモササウルス
167	10月	海を泳ぐ動物(その4) - 海を泳ぐ哺乳類-	225	8月	特別展開催中・火星が6万年ぶりの大接近!
168	11月	陸を歩く動物(その1) - 両生類・爬虫類-	226	9月	いろいろな虫がとれたよ!・特別展おわる
169	12月	陸を歩く動物(その2) - 陸を歩く鳥類-	227	10月	特別展『虫とくらし』・化石クリーニングとレプリカづくり
170	1月	謹賀新年 - 近況報告-	228	11月	65種類のきのこがありました!・特別展『虫とくらし』
171	2月	近況報告 - そして、クジラのはなし-	229	12月	特別展『虫とくらし』開催中・広がる化石を知る活動
172	3月	陸を歩く動物(その4) - 陸を歩く哺乳類-	230	1月	ウミガメ化石発見!! - 冬の星座観察会のお知らせ
1999 (平成11) 年度					
173	4月	寄贈資料の紹介	231	2月	マイミュージアム<特別展示室開放事業>・特別展 『虫とくらし』終了!
174	5月	展示資料の紹介(その1) - 長頸竜	232	3月	ホッピー化石アドベンチャー・マイミュージアムがスタート
2004 (平成16) 年度					
233	4月	ミニミニ恐竜海竜ランド・平成16年度博物館の行事	234	5月	寄贈資料の紹介
234	5月	寄贈資料の紹介	235	6月	植物写真の撮影とプリント会・怪獣おもちゃ展スタート!
235	6月	植物写真の撮影とプリント会・怪獣おもちゃ展スタート!			

表3 (続き) 博物館広報紙「ホッピーだより」 タイトル一覧 (No. 113~No. 235)

博物館（類似施設等含む）

176（国内157、国外19）

青森県立郷土館
 秋田県立博物館
 秋吉台科学博物館
 旭川市青少年科学館
 旭川市博物館
 浅間火山博物館
 足寄動物化石博物館
 阿南町化石館
 網走市立郷土博物館
 虻田町立火山博物館
 飯田市美術博物館
 石狩市教育委員会 文化財・博物館建設準備室
 石川県白山自然保護センター中宮展示館
 伊豆大島火山博物館
 板橋区立教育科学館
 いわき市石炭化石館
 岩手県立博物館
 浦河町立郷土博物館
 浦幌町立博物館
 愛媛県立博物館
 江別市郷土資料館
 えりも町郷土資料館ほろいずみ/水産の館
 遠軽町先史資料館
 大阪市立自然史博物館
 大船渡市立博物館
 沖縄県立博物館
 小川原脩記念美術館
 小樽市博物館
 帯広市百年記念館
 香川県自然科学館
 鹿児島県立博物館
 神奈川県立生命の星・地球博物館
 上士幌町ひがし大雪博物館
 上湧別町ふるさと館 J R Y
 北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館
 岐阜県立博物館
 京都市青少年科学センター
 釧路市青少年科学館
 釧路市立博物館
 熊本市立熊本博物館
 久美浜町立植物標本館
 倉敷市立自然史博物館
 倉吉博物館
 群馬県立自然史博物館
 群馬県立歴史博物館
 高知県うぶすま博物館
 国立科学博物館 新宿分館 図書室

御所浦白亜紀資料館
 さいたま川の博物館
 埼玉県立自然史博物館
 斎藤報恩会自然史博物館
 財団法人 アイヌ民族博物館
 財団法人 北海道開拓の村
 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
 佐賀県立博物館
 佐川地質館
 札幌市青少年科学館
 札幌市博物館活動センター
 札幌市豊平川さけ科学館
 佐渡博物館
 様似郷土館
 沙流川歴史館
 産業技術総合研究所 地質調査総合センター地質標本館
 滋賀県立琵琶湖博物館
 静内町郷土館
 士別市立博物館
 島根県立博物館
 下川町ふるさと交流館
 斜里町立知床博物館
 知内町郷土資料館
 市立函館博物館
 信州新町化石博物館
 仙台市科学館
 仙台藩元陣屋資料館
 大雪山国立公園層雲峡ビジターセンター
 滝川市美術自然史館
 千歳サケのふるさと館
 千葉県立大根博物館
 千葉県立現代産業科学館
 千葉県立中央博物館 図書室・教育普及課
 築地市場おさかな普及センター資料館
 津山郷土博物館
 東京都高尾自然科学博物館
 東海大学自然史博物館
 洞爺湖森林博物館
 戸隠村地質化石館
 徳島県立博物館
 栃木県立博物館
 鳥取県立博物館
 苫小牧市科学センター
 苫小牧市博物館
 富山市科学文化センター
 豊橋市自然史博物館
 中川町自然誌博物館
 長野市立茶臼山自然史館
 長野市立博物館
 名古屋市科学館

名古屋市博物館
 名古屋大学博物館
 名寄市北国博物館
 新潟県立自然科学館
 新冠町郷土資料館
 沼田町化石館
 根室市博物館開設準備室
 野尻湖ナウマンゾウ博物館
 箱根町立大涌谷自然科学館
 秦野市立桜土手古墳展示館
 八戸市博物館
 林原自然科学博物館 資料管理部
 光記念館
 日高山脈館
 日高町郷土資料館
 日和佐うみがめ博物館
 美幌博物館・美幌農業館
 平塚市博物館
 平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 広島市交通科学館
 福井県自然保護センター
 福井県立恐竜博物館
 福井県立歴史博物館
 福井市自然史博物館
 福島県立博物館
 府中市郷土の森博物館
 富良野市郷土館
 鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
 星の降る里百年記念館
 北海道開拓記念館
 北海道海鳥センター
 北海道立オホーツク流氷科学センター
 北海道立近代美術館
 北海道立文書館
 北海道立北方民族博物館
 北網圏北見文化センター
 本別町歴史民俗資料館
 三重県立博物館
 三笠市立博物館
 瑞浪市化石博物館
 三石町郷土館図書館
 御船町恐竜博物館
 宮崎県立総合博物館
 宮沢賢治記念館
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
 美祿市歴史民俗資料館・化石館
 室蘭市民俗資料館
 紋別市立郷土博物館
 門別町立図書郷土資料館
 山形県立博物館
 山口県立山口博物館
 夕張化石の展示館
 夕張市石炭化石博物館

表4 交換文献の送付先

余市水産博物館	秋田大学 工業資源学部 地球資源学科	北海道教育大学 釧路校 地学教室
横須賀市自然・人文博物館	応用地球科学教室	北海道教育大学 札幌校 地学教室
利尻町立博物館	茨城大学 理学部 地球科学教室	北海道教育大学 函館校 地学教室
龍河洞博物館	宇都宮大学 教育学部 地学教室	三重大学 教育学部 地学教室
留萌市 海のふるさと館	愛媛大学 理学部 生物地球圏科学科	宮崎大学 教育学部 地学研究室
和歌山市立博物館	大分大学 教育福祉科学部 地理教室	山形大学 理学部 地球科学教室
稚内市青少年科学館	大阪青山短期大学 博物館学芸員課程	山口大学 理学部 地球科学教室
	大阪市立大学 理学部 地学教室	山梨大学 教育学部 地学教室
アメリカ :	岡山大学 理学部 地球科学科	横浜国立大学 教育学部 地学教室
FIELD MUSEUM of NATURAL HISTORY	お茶の水女子大学 文教育学部人間社会	琉球大学 理学部 海洋自然科学科
HARVARD UNIVERSITY, MUSEUM of	科学科 学芸員課程	早稲田大学 教育学部 地学教室
COMPARATIVE ZOOLOGY	香川大学 教育学部 地学教室	
UTAH MUSEUM OF NATURAL HISTORY	鹿児島大学 理学部 地球環境科学科	研究機関 9
NATURAL HISTORY MUSEUM of	金沢大学 理学部 地学教室	財団法人 前田一步園
LOS ANGELES COUNTY	川村学園女子大学	産業技術総合研究所
PEABODY MUSEUM of NATURAL	岐阜大学 教育学部 地学教室	産業技術総合研究所 北海道地質調査連
HISTORY	九州大学 理学部 地球惑星科学科	携研究体
SMITHSONIAN INSTITUTION,	京都大学 理学部 植物図書室	自然史科学研究所
NATIONAL MUSEUM of	京都大学 理学部 地質学鉱物学教室	北海道環境文化研究センター
NATURAL HISTORY	熊本大学 理学部 地学教室	北海道理科教育センター
THE AMERICAN MUSEUM of	群馬大学 教育学部 地学教室	北海道立教育研究所
NATURAL HISTORY	高知大学 理学部 地質学教室	北海道立地質研究所 図書室
THE CARNEGIE MUSEUM of	神戸大学 理学部 地球科学教室	文化環境研究所
NATURAL HISTORY	佐賀大学 教育学部 理科教室	
カナダ :	札幌学院大学 人文学部 学芸員課程	図書館 7
ROYAL TYRRELL MUSEUM OF	滋賀大学 教育学部 地学教室	国立国会図書館
PALAEONTOLOGY	滋賀大学 附属図書館教育学部分館	伊達市立図書館
ROYAL ONTARIO MUSEUM	静岡大学 理学部 地球科学教室	東京学芸大学 付属図書館
ドイツ :	島根大学 総合理工学部 地球資源環境	苫小牧市立中央図書館
HUMBOLT UNIVERSITY, NATURAL	学教室	登別市立図書館
HISTORY MUSEUM	信州大学 理学部 地質科学科	北海学園大学 附属図書館
INSTITUTE and MUSEUM of	千葉大学 理学部 地球科学科	北海道立図書館
GEOLOGY and PALEONTOLOGY,	筑波大学 地球科学系 図書室	
UNIVERSITY of TUBINGEN	鶴見大学 歯学部 解剖学教室	学術団体 5
STAATLICHES MUSEUM fur	東京大学 理学部 地質学教室	全国科学博物館協議会
NATURKUNDE	東北大学 理学部 自然史標本館	地学団体研究会
イギリス :	徳島大学 教養部 地学教室	日本地質学会
THE NATURAL HISTORY MUSEUM	鳥取大学 教育学部 地学教室	日本博物館協会
ベルギー :	富山大学 理学部 地球科学教室	北海道自然保護協会
INSTITUT ROYAL DES SCIENCES	長崎大学 教育学部 地学教室	
NATURELLES DE BELGIQUE	名古屋大学 理学部 地球科学教室	教育委員会等 11
オランダ :	新潟大学 理学部 地質科学教室	
NATIONAAL NATUURHISTORISCH	日本大学 生物資源科学部資料館	報道機関その他 9 (国内7, 国外2)
MUSEUM	日本歯科大学 新潟歯学部 医の博物館	
オーストラリア :	弘前大学 理学部 地球科学教室	個人研究者 59
QUEENSLAND MUSEUM	広島大学 理学部 地球惑星システム学	
中国 :	教室	
ZIGONG DINOSAUR MUSEUM	福島大学 教育学部 地学教室	
(自貢恐竜博物館)	北海道大学 高等教育機能開発総合セン	
ブラジル :	ター	
MUSEU DE BIOLOGIA PROF. MELLO	北海道大学 理学部 地球惑星科学教室	外部発送先合計 336
LEITAO	北海道教育大学 旭川校 地学教室	(国内315・国外21)
大学 60	北海道教育大学 岩見沢校 地学教室	
秋田大学 工学資源学部 応用地球科学		
教室		

表4 (続き)

2004年3月31日現在

穂別町立博物館 20年史年表

※人名の敬称は略させていただきました

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
1977 昭和 52			7/5-8 長頸竜化石ホベツアラキリュウ発掘
1978 昭和 53	11 旧さくら保育所あとに郷土資料館開館		
1979 昭和 54			3/5 ホベツアラキリュウ化石骨, 町指定文化財に指定
1980 昭和 55	10/16 第1回穂別町郷土資料館建設計画検討委員会開催 3/13 第6回検討委員会, 名称を穂別町立博物館に変更		
1981 昭和 56	5/22 第7回検討委員会 6/24 第1回展示班打合せ会議 7-12月 博物館建設工事 9/1 鈴木茂学芸員赴任(～'85.3) 2/10 第10回検討委員会 3/11 第1回資料収集班会議		1/16- ホベツアラキリュウ復元作業
1982 昭和 57	7/20 穂別町立博物館開館 8/26 第1回博物館協議会 11/1 北海道博物館協会加入 12/1 第2回博物館協議会 3/2 博物館法の登録博物館となる 3/28 博物館協力会設立総会	8/17 「昆虫や化石の名前をおぼえよう」 9/27 コイワシクジラ全身骨格設置 10-3月 化石クリーニング教室(9回) 10/31-11/3 町民文化祭 化石展 12/19 ホベツアラキリュウ全身骨格設置 12/19-1/23 第1回特別展「よみがえるクビナガリュウ」 ビデオ映写会(4回実施) 2/5-26 「穂別のおいたちを探る」(4回)	5/2 日本地質学会第89年学術大会(新潟市)にて口頭発表 7/21 長頸竜化石採集 11/20-21 モササウルス化石採集
1983 昭和 58	4/1 日本博物館協会加入 4月 博物館広報紙「ホッピーだより」創刊 6/3 第1回博物館協議会 8/1 全国科学博物館協議会加入 9/27 第2回博物館協議会 3/29 第3回博物館協議会 3月 研究報告第1号刊行	4-9月 化石クリーニング教室(6回) 5/31 常設展示・白亜紀化石の展示替え 6/26 「春の野山を歩く」 7/10 植物 昆虫の標本づくり教室 7/22-8/7 第1回収蔵資料展「地図展」 8/10 化石採集会 11/1-3 第2回収蔵資料展「こけし展」 ビデオ映写会(6回実施) ホッピーだより発行(No.1~12)	8/28 博物館協力会の化石採集会 11/27 日本地質学会北海道支部例会(札幌市)にて講演 2/18 地団研北海道支部例会(札幌市)にて講演 2月 「よみがえるクビナガリュウ」(村上 隆著) 発刊 3/30 日本地質学会第91年学術大会(東京都)にて口頭発表 3月 研究報告第1号(「穂別産デスモスチルス」, 「板鯉類化石」, 「クビナガリュウ復元」, 「穂別産白亜紀爬虫類」他)
1984 昭和 59	5/12 博物館協力会総会 6/14 第2展示室(博物館保存庫)完成・公開 7/9-11 平山 廉来館 9/19 第1回博物館協議会 10/28 アルゼンチン, ラプラタ博物館パスカル教授夫妻ほか来館 11/29 イギリス, レディング大学ホールステッド教授ほか来館 1/31 第2回博物館協議会 3月 館報第1号(1982・1983年度版)刊行	5-10月 化石クリーニング教室(随時) 6/24 講座「初夏の野山をあるく」 11/1-4 第3回収蔵資料展「古い写真・古い文書展」 2/11 講演会「穂別にもいたデスモスチルス」 ビデオ映写会(2回実施) ホッピーだより発行(No.13~24)	3月 研究報告第2号(「穂別町の地質」, 「穂別産ウミガメ化石」, 「モササウルス化石」, 「穂別産長頸竜化石」, 「穂別産デスモスチルス」他)

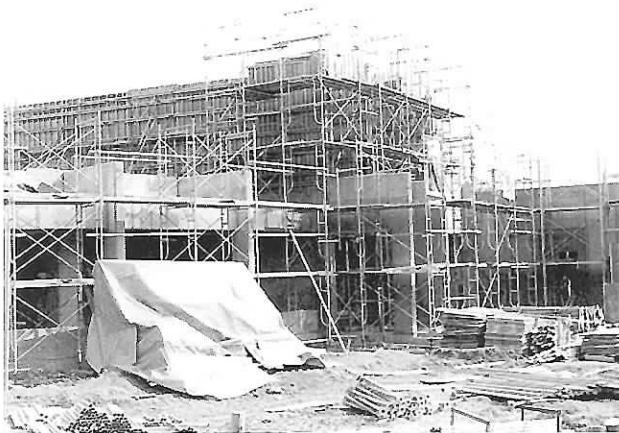
表5 穂別町立博物館 20年史年表(1977~1984年)



5-1 ホベツアラキリュウの発掘（穂別町内、1977年）



5-2 野外調査（穂別町内、右端が鈴木学芸員、1981年）



5-3 穂別町立博物館の建設（1981年）



5-4 博物館開館式典（特別展示室、1982年）



5-5 博物館事務室にて（左から、亀井節夫、仲谷英夫、平山 廉、1982年）



5-6 第2展示室（博物館保存庫）の建設と公開（1984年）

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
1985 昭和60	5/1 地徳力学芸員赴任(～'99.3) 5/10 博物館協会の総会 6/7 仲谷英夫来館 9/19 インド, ルールキ大学 ゴォエル他来館 3/4 博物館協議会 3月 館報第2号(1984年度版)	5-10月 化石クリーニング教室(随時) 8/6-7 「穂別町内地質巡検・化石についての講演会」(胆振理科教育研究会) 9/10 「穂別町内地質巡検」(札幌市教育研究所) 11/1-10 第2回特別展「北海道一億年」 11/3, 15 移動博物館コンサート 11/29 穂別高校文化講演会「化石の研究について」 3/4 講演会「展示活動について」 ホッピーだより発行(No.25～26)	5/5 クジラ化石採集 8/21 カメ化石採集 9/23 モササウルス化石採集 10/20 博物館協会の化石採集 3月 研究報告第3号(「穂別産長頸竜化石の地質年代」, 「白亜紀地層レキシコン」他)
1986 昭和61	6/10-8/8 入館者アンケート実施 6/23-24 収蔵庫燻蒸 11/14 収蔵庫改造工事 11/27-12/10 文学資料展(町史編纂室主催) 3/4 博物館協議会 3月 館報第3号(1985年度版)	5-10月 化石クリーニング教室(随時) 7/20 講座「親子植物採集会」 7/21-22 「地域の自然と博物館」(静修短期大学研修会) 8/3-4 地学団体研究会(第40回総会)地質巡検 8/10 講座「砂金堀り」 9/28 地学団体研究会札幌支部巡検 9/30 穂別高校 地理巡検 10/21-11/9 第3回特別展「穂別の自然」 10/30 穂別高校文化講演会「化石および化石調査に関して」 ホッピーだより発行(No.27～38)	ホベツモササウルス記載論文(鈴木) 3月 研究報告第4号(「微化石の産出」, 「堆積性蛇紋岩」他)
1987 昭和62	4/27 三面マルチスライド, オーバーホール 7/14-8/16 入館者アンケート実施 8/22 松本達郎来館 3/15 博物館協議会開催 3月 館報第4号(1986年度版)	5-10月 化石クリーニング教室(随時) 5/25 北海道大学理学部地質学鉱物学教室 6/2 鶴川町教育研究会(理科サークル) 7/28-8/9 第4回特別展「アンモナイトの系図」 9/23 講座「(部分)日食観察会」 10/24 穂別町教職員 11/1-3 博物館協会の「穂別の化石」展 12/9-10 沼田町化石研究会 ホッピーだより発行(No.39～50)	4/2-4 日本地質学会第94年学術大会(大阪)で口頭発表 7/22-24 日高山脈地質巡検に参加
1988 昭和63	5/3 第3展示室(博物館保存庫)工事開始(7/17 公開) 4/26-28 学芸員, 岐阜市で展示指導 5/27 博物館協会の総会 8/1-3 学芸員, 岐阜市で展示指導 9/22-28 学芸員, 小平町で発掘指導 2/24 臨時休館(大葬の礼) 3/16 博物館協議会 3/17 ワシントン大学リー教授来館 3月 館報第5号(1987年度版)	5-7, 10月 化石クリーニング教室(随時) 5/31 クビナガリュウの化石骨他「食の祭典」に貸出 6/11 日本応用地質学会北海道支部巡検 7/8-9/18 ぎふ中部未来博にホッピー展示 8/4-10 自然体験王国北海道(穂別コース)の化石採集・クリーニング指導 8/23-9/4 第5回特別展「穂別のカメ化石」 9/29 鶴川町教育研究会(社会科サークル) ホッピーだより発行(No.51～62)	4/19-22 アンモナイトのレプリカ作成 3月 研究報告第5号(「巨大アンモナイト」他)

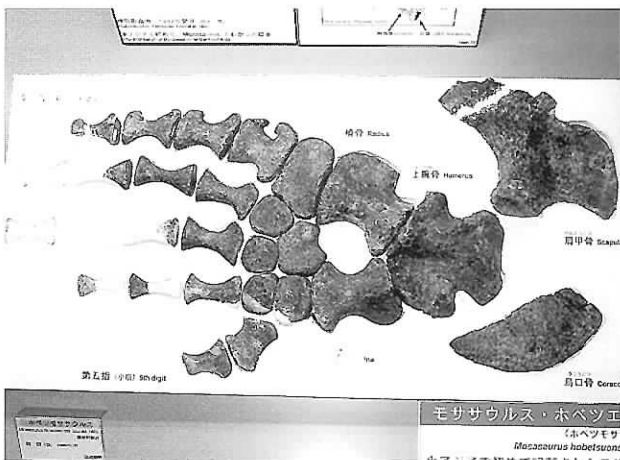
表5(続き) 20年史年表(1985～1988年)



5-7 特別展「北海道一億年」(特別展示室, 1985年)



5-8 講座「砂金掘り」(穂別町内, 1986年)



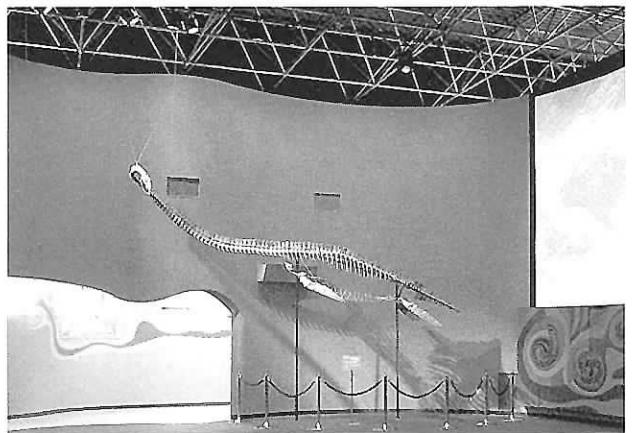
5-9 ホベツモササウルス記載論文発表(鈴木, 1986年)
完換式標本(右前肢, 常設展示室)



5-10 特別展「アンモナイトの系図」(特別展示室, 1987年)
案内は高橋博志(博物館協力会)



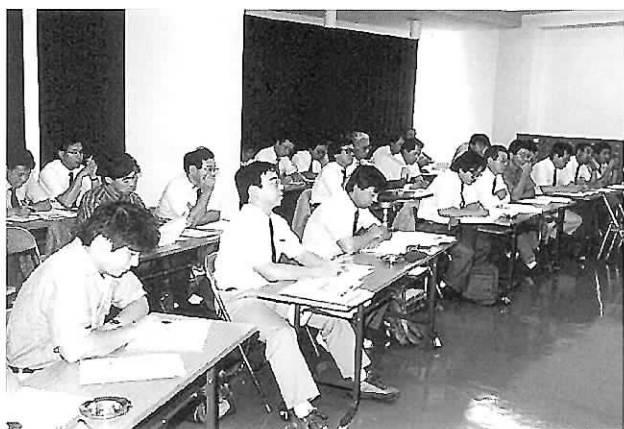
5-11 第3展示室(博物館保存庫)の建設と公開(1988年)



5-12 ぎふ中部未来博の健康地球館(スズケン)にホッピーが展示(1988年, スズケン発行の絵葉書から)

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
1989 平成元	5/30 博物館協力会総会 9/13-14 北海道博物館協会学芸職員研修会 9/29-10/6 学芸員, カナダ・ドラムヘラー市視察研修 9/30 中国地質科学院 研究者来館 3/16 博物館協議会 3月 館報第6号 (1988年度版)	4/29 穂別町産カメ化石展示 6-10月 化石クリーニング教室 (随時) 7/18-8/20 第6回特別展「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」 7/29-8/3 自然体験王国北海道 (穂別コース) の化石採集・クリーニング指導 8/4 全国市立中学高等学校理科 (地学) 研究会 研修 ホッピーだより発行 (No. 63~74)	5/3-7 日本地質学会第96年学術大会 (水戸市) に出席 9/10 パンケトサノ沢、カメ化石発掘 3月 研究報告第6号 (「当館所蔵の脊椎動物化石」他) ホベツアラクリュウ記載論文 (仲谷)
1990 平成2	6/27 博物館協議会 (展示更新基本方針の説明) 7/23 カナダ, ドラムヘラー市長夫妻視察 8/21 ロサンゼルス郡立自然史博物館バーンズ他来館 9/3-5 カナダ, ティレル古生物博物館レイド来館 11/17- 展示更新検討会議 (3回) 3月 館報第7号 (1989年度版)	4/19 転入教職員研修 7/30-8/1 自然体験王国北海道 (穂別コース) の化石採集 クリーニング指導 8/18-9/16 第7回特別展「戦争と穂別」 ホッピーだより発行 (No. 75~86)	10/7-10 日本地質学会第97年学術大会 (富山市) で口頭発表. 恐竜化石産地視察 12/8-9 日本地質学会北海道支部例会に出席 3月 研究報告第7号 (「セノマニアン アンモナイト」, 「ティロサウルスの地質年代」他)
1991 平成3	4/13- 展示更新検討会議 (11回) 4/28-9 入館者 10万人達成記念事業 10/5 穂別地球体験館 開館 10/29 博物館協議会 2/1 展示更新工事開始・休館 (~4/28) 2/28 博物館協議会 3月 館報第8号 (1990年度版)	5/16 転入教職員研修 6/4 穂別町教育研究会 (理科サークル) 7/18 東北大学理学部地質古生物学教室 7/29-30 自然体験王国北海道 (穂別コース) の化石採集・クリーニング指導 9/13 札幌学院大学社会教育実習 ホッピーだより発行 (No. 87~96, 号外)	4/3-7 日本地質学会総会 (松山) に出席 3月 研究報告第8号 (「穂別産準アンモナイト」, 「ウミガメ上腕骨の多様性」他)
1992 平成4	4/9 博物館協力会総会 4/29 展示更新完了, 一般公開再開 5/10-31 町民無料観覧期間 9/12 第二土曜日の町内児童生徒無料観覧実施 (学校週休二日制対応) 3/30 博物館協議会 3月 館報第9号 (1991年度版)	4/23-25 カリー, P. J (カナダ, ティレル古生物学博物館) 来館・特別講演 7/20 福岡教育大学地質学教室 7/23-24 「トムソーヤクラブ」 (化石採集, クリーニング) 7/30 ドイツ, スポーツ少年団 7/6-7, 7/27, 8/5, 8/8 常設展示調整 11/29 千歳化石会 講演「化石の世界」 ホッピーだより発行 (No. 98~100)	4/5-8 日本地質学会第99年学術大会 (熊本市) に出席 9/7-8 カメ化石発掘 (富内) 3/31 「穂別町立博物館ガイドブック」発刊 3月 研究報告第9号 (「マストリヒチアンのイノセラムス」他)
1993 平成5	9/25-26, 10/9-11 学芸員, 小平町で長頸竜発掘指導 12/3-4 学芸員, 「博物館活動交流推進会議-道央ブロック学芸員等会議」に出席 3月 館報第10号 (1992年度版)	5/15 転入教職員研修 9/22 北海道理科教育研究会 苫小牧支部 10/1 北海道開拓記念館・開拓の村 文化振興会 11/28 千歳化石会 講演「化石についての最近の話題」 1/25 「村立穂別高校」にて講演「クビナガリュウ時代」 2/6 常設展マルチスライド更新 ホッピーだより発行 (No. 101~112)	4/3-7 日本地質学会第100年記念大会 (東京都) で口頭発表 5/2 長頸竜化石発見 (長和) 3/26 日本地質学会北海道支部総会 (札幌市) で口頭発表 3月 研究報告第10号 (「穂別産ティロサウルス記載論文」他)

表5 (続き) 20年史年表 (1989~1993年)



5-13 北海道博物館協会学芸職員研修会（会場：穂別、1989年）



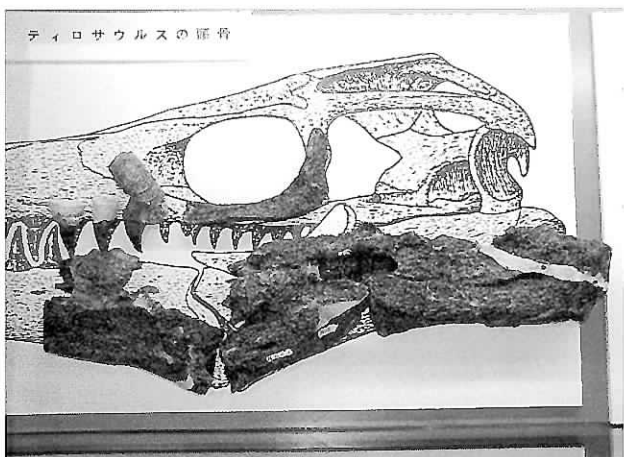
5-14 自然体験王国北海道（穂別コース）の展示見学（1989年）



5-15 カナダ・ドラムヘラー市長夫妻来館（右端が地徳学芸員、1990年）



5-16 穂別地球体験館開館（1991年）



5-17 ティロサウルス記載論文発表（地徳、1993年）
産出した下顎骨（常設展示室）



5-18 ホベツケントリオドン記載論文発表（一島、1994年）
完模式標本（頭骨、常設展示室）

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
1994 平成6	4/1 川上源太郎学芸員就任 (~'98.3) 5/31-6/3 北海道開拓記念館移 動展にて展示研修 7/29-8/4 博物館実習生 9/21 博物館協議会 12/12 博物館協会総会 2月- 入館者アンケート実施 (-10月) 3月 館報第11号(1993年度版)	6/21 転入教職員研修 6/29 自然体験王国北海道(穂別コース)の 化石採集・クリーニング指導 7/24 わんぱくサマーin北海道 化石採集 指導 7/31 日本地学教育学会第48回全国大会 11/27 千歳化石会 講演「白亜紀の穂別」 12/6 鶴川町複式教育研究会 ホッピーだより発行(No.113~124)	7/25 カメ化石3点採集 9/23 日本地質学会101年学術 大会普及講演「北海道むかし むかし・北海道の恐竜時代」 ホベツケントリオドン記載論 文(一島) 3月 研究報告第11号 (「 <i>Gaudryceras venustum</i> の 再研究」他)
1995 平成7	-10月 入館者アンケート実施 4/30 博物館協会化石採集体 験用地柵圍作業 7/15-9/12 カナダ, アルバータ 州ティレル古生物学博物館に学 芸員を派遣・研修 8/12 かせき学習館完成 3月 館報第12号(1994年度版)	5/13 北海道大学理学部地球惑星科学科1年 来館 6/23 転入教職員研修 10/1 北海道開拓記念館巡検 10/29 鶴川町地域子供会育成連絡協議会 11/29 千歳化石会 講演「カナダ研修旅行- ティレル古生物学博物館と恐竜化石発掘」 9/27-10/3 第7回全国生涯学習フェスティ バルに, クビナガリュウとアンモナイトを 貸出 ホッピーだより発行(No.125~136)	5/4, 9, 12 サメの椎骨・歯化石 採集 6/24, 8/17 植物化石採集 9/27-29 日本地質学会第102 年学術大会(広島市) 3月 研究報告第12号(「遠別 産翼竜化石記載論文」他)
1996 平成8	7/3 韓国慶北大学師範大学 梁 承榮教授ほか来館 7/27-28 「'96 北海道化石サミ ット」開催(穂別町) 8/12-22 博物館実習生(静修女 子大学) 10/12-13 博物館協会研修旅 行 3月 館報第13号(1995年度版)	6/18 転入教職員研修 8/20 普及講演会「穂別の地質」 8/24 苫小牧市博物館普及講演会(市民大学 講座)「地質から見た東胆振」 9/27 信州大学学生巡検 10/22 寿学級普及講演会「太古の世界」 10/26 郷土学習「ホッピー通り探検」 11/16 占冠村 PTA 連合会教育講演会「化石 の世界」 12/1 千歳化石会 講演「地層につけられた 呼び名について」 ホッピーだより発行(No.137~148)	3/31-4/4 日本地質学会第103 年学術大会(仙台市) メンダーモケリス記載論文(平 山・地徳) 3月 研究報告第13号(「穂別 の中新世堆積岩類」他)
1997 平成9	5/16 日胆地区博物館等連絡協 議会設立総会(苫小牧市) 7/6 クビナガリュウ発掘20周 年記念式典 8/4-11 博物館実習生(道都大 学) 9/8-9 「'97 北海道化石サミ ット」(沼田町) 3月 館報第14号(1996年度版)	6/19 転入教職員研修 7/6 記念特別講演「化石の里の穂別の夢」 香川大学 仲谷英夫博士講演 7/10-8/31 第8回特別展「クビナガリュウ 発掘20周年パネル展」 7/11 信州大学学生巡検 8/8-9 小学生夏休み博物館宿泊体験学習 8/24 開拓記念館第44回特別展 講演「龍 (ドラゴン)の海から」 9/3-9/16 '97 北海道化石サミット記念特別 展に, クビナガリュウ全身復元骨格展示 10/16 北海道教育大学釧路校 巡検 10/29 日高管内理科教育研究会 11/30 千歳化石会 講演「穂別ダム周辺の 地質」 ホッピーだより発行(No.149~160)	9/5 脊椎動物化石採集 10/9-13 日本地質学会第104 年学術大会(福岡市) 3月 研究報告第14号(「リク ガメ化石の地質年代」他)

表5 (続き) 20年史年表(1994~1997年)



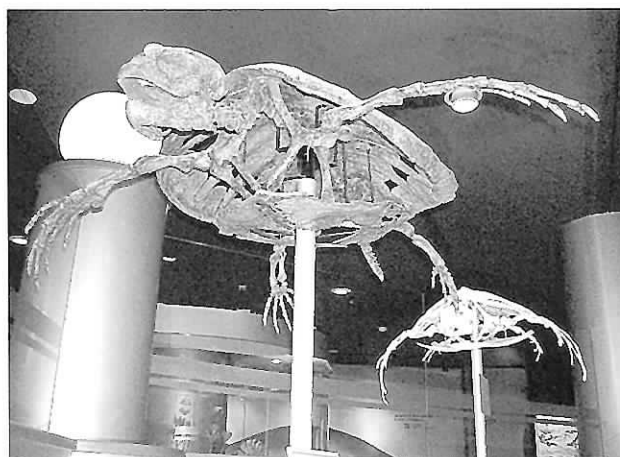
5-19 野外調査（穂別町内、右端が川上芸員、1994年）



5-20 かせき学習館の建設（1995年）



5-21 郷土学習「ホッピー通り探検」（穂別町内、1996年）



5-22 メソダーモケリス記載論文発表（平山・地徳、1996年）
メソダーモケリス全身復元骨格（手前、常設展示室）



5-23 クビナガリュウ発掘20周年記念式典（町民センター、1997年）



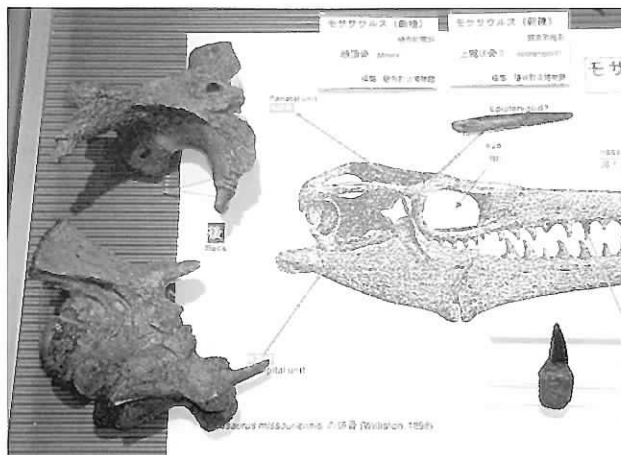
5-24 発掘20周年記念、仲谷英夫による特別講演（1997年）

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
1998 平成 10	4/1 櫻井和彦学芸員就任 4/8 博物館協力会総会 10/8-9 「'98 北海道化石サミット」(足寄町) 10/29 博物館協議会 1/18-2/5 博物館実習生(北海道教育大学札幌校) 3月 館報第15号(1997年度版)	8/11-13 第9回特別展「地球物語り(地質学普及書の近代史)」 8/23 喜茂別町教育委員会「少年教室わんぱく道場」化石採集会 9/12 「土よう日の集い」化石採集会(福山地区) 9/14 ほべつ銀河鉄道の夕べ「富内イギリス海岸」 11/29 千歳化石会 講演会「異常巻きアンモナイトの殻の形態」 12/3-1/25 コイワシクジラ全身骨格修正 1/13 「土よう日の集い」化石クリーニング教室 ホッピーだより発行(No. 161~172)	9/25-27 日本地質学会第105年年会(松本市)で口頭発表 10/20 巨大アンモナイト採集 3/13 日本地質学会北海道支部例会(札幌市)で口頭発表 3月 研究報告第15号(「穂別産モササウルス記載論文」他)
1999 平成 11	4/20 博物館協力会総会 5/1- 日胆博協スタンプラリー'99(-2/29) 5/29 入館者30万人達成記念事業 8/29-30 かせき学習館燻蒸 9/14-23 博物館実習生(北海道教育大学旭川校) 10/21-22 「'99 北海道化石サミット」(小平町) 3月 館報第16号(1998年度版)	6/23, 8/27, 10/27 博物館めぐりバスツアー 7/8 NHK文化教室「展示見学」 8/1-8/31 第10回特別展「滄龍の泳いだ海-7,000万年前の穂別」 9/11 「土よう日の集い」化石採集会(福山地区) 9/16 胆振教育局初任者研修「地域研修」 10/5-11/28 第11回特別展「穂別の自然」 10/30 日高町教育委員会「化石採集」 11/12 静内町郷土館(静内町)で講演 11/28 千歳化石会 講演「穴あきアンモナイト」 12/18 北海道海鳥センター(羽幌町)で講演 3/11 「化石クリーニングとレプリカ作成」 ホッピーだより発行(No. 173~184)	10/8-12 日本地質学会第106年年会(名古屋市)で口頭発表 3月 研究報告第16号(「穂別町安住地区の層序」他)
2000 平成 12	4/21 博物館協力会総会 10/20 博物館協議会 3/7-8 脊椎動物化石研究交流会(足寄動物化石博物館) 3月 館報第17号(1999年度版)	5/31 遠別産翼竜化石を展示 6/2 稲里小学校 講演「穂別の化石」 6/24 ホッピー探検隊2000 7/2 博物館見学バスツアー 7/7-8 星座観察会・ホッピーと泊まろう 8/1-31, 9/17-10/1 第12回特別展「穂別の石-川原の石から見た穂別-」 8/26 ティロサウルス頭骨レプリカを展示 9/14 富内銀河鉄道の夕べ「富内イギリス海岸と蛇紋岩溪谷探訪」 9/17-10/1 日胆博協主催 移動展 10/24 「川原の石の観察会」(富内中) 11/2 胆振教育局初任者研修「地域研修」 11/22 厚真高校(厚真町)にて講演 11/26 千歳化石会 講演「アンモナイトの生活」 11/30 町複式教育研究会研修会にて講演 ホッピーだより発行(No. 185~196)	9/28-10/2 日本地質学会第107年年会(松江市) 3/24 日本地質学会北海道支部例会(札幌市)で口頭発表

表5 (続き) 20年史年表(1998~2000年)



5-25 ほべつ銀河鉄道のタペ「富内イギリス海岸」(1998年)
富内イギリス海岸の観察。



5-26 穂別産モササウルス記載論文発表(櫻井ほか, 1998)
完模式標本(歯・後頭骨・頭頂骨ほか, 常設展示室)



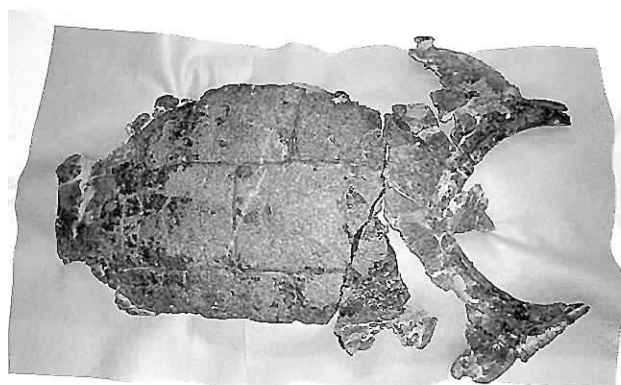
5-27 野外調査(穂別町内, 1998年)
千歳化石会と合同調査



5-28 化石クリーニングとレプリカづくり(特別展示室, 1999年)



5-29 「川原の石の観察会」(穂別町内, 2000年)
町内中学校3年生の授業として実施。



5-30 アノマロケリス記載論文発表(Hirayama et al, 2001)
完模式標本(背甲, 常設展示室)

年度	行事・運営	普及事業・常設展・特別展	化石の発見・研究, 研修
2001 平成 13	4/27 博物館協定会総会 8/27 日本百名山写真展 11/6-15 博物館実習生 (札幌大学) 2/8 日胆博協 役員会・館長会議 (穂別町) 3/19 博物館協議会 3月 館報第 18 号 (2000 年度版)	5-10 月 ほべつの森の観察会 (6 回実施) 5/18 リクガメ化石のレプリカ展示 6/9 ホッピークラブ 6/23 ホッピー探検隊 2001 8/1-25 第 13 回特別展「穂別町立博物館の 20 年-クビナガリュウととみに-」 9/13 胆振教育局初任者研修「地域研修」 11/1-3 かせき学習館収蔵庫 (人文系資料) 公開 11/10 化石クリーニングとレプリカ作成 1/11 冬の星座観察会 ホッピーだより発行 (No. 197~208)	9/20-24 日本地質学会第 108 年年会 (金沢市) 10/21-26 平成 13 年度学芸員専門研修アドバンスト・コース (東京都) アノマロケリス記載論文公表 (平山他) 3 月 研究報告第 17 号 (「北海道中軸帯南部の断面図」)
2002 平成 14	「開町 90 年・町制施行 40 年 穂別町立博物館開館 20 周年記念事業」 4 月- 町内児童生徒・引率の無料入館実施 (週五日制・総合学習への対応) 5/18 国際博物館の日 (特定入館日に指定) 5/31 博物館協定会総会 9/27 博物館協議会 10/26-27 博物館協定会研修旅行 3 月 館報第 19 号 (2001 年度版)	4/28-5/17 第 14 回特別展「ツノのある奇妙なカメ-海の穂別からリクガメ化石発見」 5/18 ホッピー探検隊 2002 7/1-21 第 15 回特別展「穂別町立博物館の 20 年」 7/20 穂別町立博物館 20 周年記念講演会 討論会「化石の里の博物館」 7/27-8/9 穂別町立博物館協定会 企画展 8/4, 9/29 ほべつの森の観察会 8/31-9/27 第 16 回特別展「穂別のカメ化石 ~恐竜時代のウミガメとリクガメ~」 10/5 千歳化石会共催事業「化石クリーニングとレプリカづくり」 2/21 冬の星座観察会 ホッピーだより発行 (No. 209~220)	9/13-17 日本地質学会第 109 年年会 (新潟市) でポスター発表 3 月 研究報告第 18 号 (「地域素材の活用例」「自然観察会」)
2003 平成 15	5/18 国際博物館の日 (特定入館日) 5/20 穂別町立博物館協定会総会 5/22-23 展示室マルチスライド機器入換 6/1 館報第 20 号 (2002 年度版) 6/6 日胆地区博物館等連絡協議会 総会 (会場: 穂別町立博物館) 6/27 北海道開拓記念館特別展開会式出席 (札幌) 6 月- 旧中村邸復元活用会議 7/15 博物館協議会 10/8 マルチスライド機器調整 (9/26 の十勝沖地震による影響) 11/23 千歳化石会 総会 (千歳市) 2/19 穂別高校開放講座「ビートルズのタベ」(会場: 特別展示室)	6/21 ホッピー探検隊 2003 7/20-8/31 第 17 回特別展「穂別を泳いだモササウルス」 8/5 ほべつの森の観察会「夏の虫」 8/31 日高山脈ネイチャーセミナー「化石をさがそう」(占冠村) 9/28 ほべつの森の観察会「きのこウォッチング」 10/11 化石クリーニングとレプリカづくり 10/22-23 穂別高校インターンシップ事業「博物館業務の体験」 11/1-1/31 第 18 回特別展「虫とくらし」(協力: 北海道開拓記念館) 2/7-3/5 特別展示室開放事業<マイ・ミュージアム>「第 1 回 ミニ植物写真展・笠巻コレクション」 2/7-8 千歳化石会「化石クリーニング研修」 2/28 冬の星座観察会 ホッピーだより発行 (No. 221~232)	7-9 月 北海道横断自動車道(穂別地域)の建設に伴う現地調査 (10 回) 9/19-21 日本地質学会第 110 年年会 (静岡市) 3 月 研究報告第 19 号 (20 周年記念事業の記録)

表 5 (続き) 20 年史年表 (2001~2003 年)



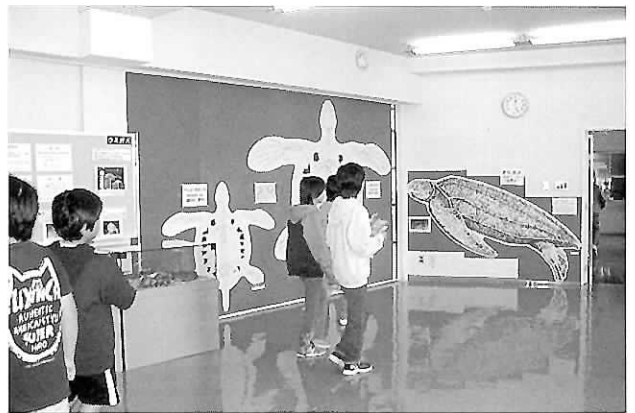
5-31 ホッピー探検隊 2001 (穂別町内, 2001年)



5-32 開館20周年記念講演・討論会 (町民センター, 2002年)
当館の初代学芸員、鈴木 茂による講演



5-33 開館20周年記念講演・討論会 (町民センター, 2002年)
討論会の様子。右から平山、川上、地徳、鈴木、櫻井と村上



5-34 特別展「穂別のカメ化石～恐竜時代のウミガメとリクガメ～」 (特別展示室, 2002年)



5-35 日胆地区博物館等連絡協議会 総会 (会場: 穂別, 2003年)



5-36 北海道横断自動車道建設に伴う調査 (穂別町内, 2003年)
穂別町立博物館協力会と合同調査